誰一人取り残さない 安全安心なやさしいまちを目指して

Re Start

福祉課（内線222）

Vol.29 アルコール依存症

飲酒が習慣化すると次第に量が増え、知らず知らずのうちにアルコール依存症へ進行することがあります。アルコール依存症は、単に健康を害するだけでなく、生活全般にわたる深刻な問題を引き起こします。具体的には、遅刻や欠勤といった仕事上の問題、金銭トラブルや家庭不和、さらには飲酒運転や暴行・傷害といった犯罪を犯すリスクを高めてしまいます。

アルコール依存症の根本的な治療法は「断酒」です。しかし、個人の力だけでお酒を断つことは難しく、途中で挫折したり再発したりする危険性が高いです。そのため、医療機関における入院治療や継続的な外来プログラムを利用し、断酒を維持するための専門的な支援を受けることが重要です。

アルコール依存症の克服には、周囲の人々の助けが不可欠です。アルコール依存症に向き合う人が安心して助けを求められるよう、理解ある社会を目指しましょう。

人権感覚を高め お互いを認め合う 人権尊重のまちづくり

人権のまど

市民活動課（内線357）

思いやりと支え合いの「こころづかい」を

まちで困っている人を見かけたとき、どう接すれば良いか戸惑った経験はありませんか。私たちの社会には、障がいを持つ方、高齢者、日本語が得意でない方、ベビーカーを利用する方など、さまざまな背景を持つ方々が暮らしています。こうした方々の中には、ちょっとした外出の際にも不安を感じることが少なくありません。

全ての人が「安心」して生活できる社会を目指すために大切なのは、私たち一人ひとりが相手の状況に寄り添い、「気配り」の姿勢を持つことです。例えば、困っている様子の方を見かけたら、「お手伝いできることはありますか」と声をかけることで、相手が気軽に助けを求めやすくなります。逆に自分が助けを必要とするときは、遠慮せずに周りの人へ声をかけることも、安心して外出するためには必要です。

お互いを思いやり、助け合う気持ち。その「こころづかい」を大切にして、誰もが暮らしやすいまちを目指していきたいですね。



土岐商写真部×広報とき 土岐の写真を撮り隊

Vol.32 「新年」

明けましておめでとうございます！
皆さんは2026年、どのような一年にしたいですか？
年が明け、木々は新しい芽を出す準備をしています。
木々のように、今年もさらに成長できるよう、目標を立て、新しいことに触れたり、挑戦したりしてみてはどうでしょうか。

撮影班 二年 安田優里奈（ゆりな）・小栗心音（ここね）